



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス  
 コード番号 4584 URL <http://www.g-gts.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 河南 雅成  
 (氏名) 上野 昌邦

TEL 011-876-9571

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	544	—	39	—	59	—	55	—
27年3月期第1四半期	0	△96.5	△213	—	△187	—	△188	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	23.13	17.75
27年3月期第1四半期	△78.88	—

(注) 27年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	1,276	338	24.8
27年3月期	1,146	270	21.7

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 316百万円 27年3月期 249百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	681	368.0	△150	—	△136	—	△137	—	△56.09
通期	1,022	217.9	△602	—	△573	—	△575	—	△232.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期1Q	2,406,105 株	27年3月期	2,394,105 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期1Q	— 株	27年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	2,405,841 株	27年3月期1Q	2,384,105 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 平成27年7月17日付で、新株予約権の行使により、発行済株式数が95,337株増加しております。業績予想における1株当たり当期純利益は、当該増加株式数を反映して算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第1四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5
(重要な後発事象) .....	5

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、経済対策により円安効果で輸出比率の高い大手企業が業績を伸ばしています。ただ、国内需要比率の高い多くの中小企業は、増税や輸入原材料の価格上昇など業績回復には一段の手当てが必要です。一方で世界経済は、世界を牽引してきた中国経済の成長鈍化がみられ、欧州経済も課題を抱えた状態であり、世界を牽引する国が見えにくい複雑で不透明な環境になっていることで、結果的には国内経済も影響を受けてなかなか落ち着かない状況になっております。

当社の事業に関わる医療・医薬品分野においては、社会保障費を抑制することが急務とされていますが、その解決策として後発医薬品の使用促進が近年大きくクローズアップされており、後発医薬品の数量シェアに関する数値目標も漸次引き上げられております。とりわけ、従来は後発医薬品＝ジェネリック医薬品としてのみ認識されておりましたが、平成27年3月に超党派の国会議員による「バイオシミラー使用促進議員連盟（BS促進議連）」が発足されたことを契機に、当社が現在最も注力しているバイオ後続品に対する認知度が急速に高まりつつあり、バイオ後続品の普及促進や国内企業の研究開発力向上に向けた環境整備に拍車がかかることが期待されます。

このような状況の下、当社のバイオ後続品事業は、富士製薬工業㈱と持田製薬㈱による好中球減少症治療薬「フィルグラスチムBS」の販売が順調です。

また、「フィルグラスチムBS」が順調に推移することで経営の安定感が増すことから、リスク低減と成長スピードをより一層速める目的で、次世代型G-CSF「PEG-G-CSF」の開発や㈱三和化学研究所とのダルベポエチンアルファの国内共同開発について着実に開発ステージを前進させているほか、複数のパイプライン拡充と、事業化を見据えたアライアンス先の選定を進めております。

一方、バイオ新薬事業では、次世代型抗体医薬品の研究活動を中心に取組みを進めているほか、㈱ジーンデザインとの核酸共同事業により核酸の医薬品への機会を探ったり、国立がん研究センターと共同特許出願したエクソソームなどの新規技術の取得にも力を入れています。

さらに、バイオ後続品、バイオ新薬といった医薬品の開発には時間を要するため、早期に安定的な経営環境を構築する目的で、ヘルスケア関連分野である医療機器、診断薬、再生医療などについても広くリサーチも進め、事業化に向けて取り組んでおります。

これらの結果、売上高は544,570千円（前年同期比544,170千円増）、営業利益は39,599千円（前年同期は213,750千円の営業損失）、経常利益は59,700千円（前年同期は187,588千円の経常損失）、四半期純利益は55,637千円（前年同期は188,063千円の四半期純損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の変動について)

当第1四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末比11.3%増の1,276,195千円となりました。これは主に、現金及び預金が244,558千円、流動資産のその他に含まれる未収消費税等が17,488千円減少したものの、売掛金が398,183千円増加したことによるものであります。なお、売掛金については、当社の取引件数が少なく、かつ、1件当たりの取引金額が大きいため、四半期会計期間末直前の取引状況により、四半期会計期間末における残高が大幅に増減する傾向にあります。

#### (負債の変動について)

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末比7.1%増の937,899千円となりました。これは主に、流動負債のその他に含まれる未払金が32,360千円減少したものの、買掛金が72,252千円、流動負債のその他に含まれる前受金が20,000千円増加したことによるものであります。なお、買掛金については、当社の取引件数が少なく、かつ、1件当たりの取引金額が大きいため、四半期会計期間末直前の取引状況により、四半期会計期間末における残高が大幅に増減する傾向にあります。

#### (純資産の変動について)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末比25.0%増の338,296千円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ6,000千円増加し、四半期純利益を55,637千円計上したことによるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月14日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	599,471	354,912
売掛金	189,952	588,135
前渡金	276,286	272,849
その他	26,674	5,622
流動資産合計	1,092,384	1,221,520
固定資産		
有形固定資産	334	308
無形固定資産	247	237
投資その他の資産	53,789	54,129
固定資産合計	54,371	54,675
資産合計	1,146,755	1,276,195
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	—	72,252
未払法人税等	5,275	6,420
その他	86,940	75,346
流動負債合計	92,215	154,019
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	775,000	775,000
退職給付引当金	8,880	8,880
固定負債合計	783,880	783,880
負債合計	876,095	937,899
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,576,290	1,582,290
資本剰余金	1,479,557	1,485,557
利益剰余金	△2,806,528	△2,750,891
株主資本合計	249,318	316,955
新株予約権	21,341	21,341
純資産合計	270,659	338,296
負債純資産合計	1,146,755	1,276,195

(2) 四半期損益計算書  
 (第1四半期累計期間)

(単位: 千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	400	544,570
売上原価	—	248,100
売上総利益	400	296,470
販売費及び一般管理費		
研究開発費	149,853	166,935
その他	64,297	89,935
販売費及び一般管理費合計	214,150	256,870
営業利益又は営業損失(△)	△213,750	39,599
営業外収益		
受取利息	149	10
補助金収入	26,012	20,000
雑収入	—	400
営業外収益合計	26,162	20,410
営業外費用		
株式交付費	—	93
為替差損	—	216
営業外費用合計	—	309
経常利益又は経常損失(△)	△187,588	59,700
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△187,588	59,700
法人税、住民税及び事業税	475	4,063
法人税等合計	475	4,063
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△188,063	55,637

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

新株予約権の行使による新株式の発行

平成27年7月17日付で、(株)ウィズ・パートナーズが無限責任組合員として組成する投資事業有限責任組合の保有する当社第2回新株予約権の一部(9個)について、以下のとおり権利行使がありました。

① 発行株式の種類及び数	普通株式	95,337株
② 発行価額	1株につき	1,888円
③ 発行価額の総額		179,996千円
④ 資本組入額の総額		90,844千円